

五輪精神は？

いまだ未成熟な日本のスポーツ文化と国際スポーツの舞台に見る差別意識

トリノ五輪では重大な舞台を前にしている選手に対し、プライベートな質問で動揺させたり、「何個のメダルが獲れるのか」など、根拠のないあおりを繰り返した報道の醜さには思わず閉口した。金メダルを獲った荒川静香選手についてイタリアの新聞が報じた「東洋の女神」という差別的コメントを喜んで引用したのも信じがたい愚行だ。

世界中の選手が集まり、技を競う国際舞台で、たびたび「東洋の～」や「黒人初」「黒豹」といった、特定の地域や人種を指す表現が飛び交うのはどうか？ 白人社会の差別意識が強いからではないのか？ 1919年、日本はパリ講和会議で人種差別撤廃案を提出して不採択にされた。1938年には「人種平等の精神に合致せざる」としてナチスの政策を批判し、多数のユダヤ難民を救出した。にもかかわらず、今や日本は報道が率先して欧米的差別意識を垂れ流している。

国際スポーツの舞台では、競技の採点もメディアの評価も平等になされるべき。そして日本は国を挙げてスポーツを支援して結果を出しながら、スポーツ文化をもっと大切に育むべきだ。

いまだどきどきの歴史

一番新しい日本のページ

順風満帆？

今や全国的に愛されている帆布製靴 早く問題を解決して復活して欲しい



優れた耐久性と、使い込めば使い込むほど味わいが出ることで全国的に多くのファンをもつ京都の靴ブランドで、同志社大学付属小学校のランドセルにも採用され話題になった「一澤帆布」。ところが同社内部で騒動が起き、社長解任や工房明け渡しの裁判所命令などのトラブルが相次いで、これによって一澤帆布は当面靴の製造ができない状態になってしまった。このままでは多くの職人を率いて一澤帆布を離れた前経営者が別ブランドを立ち上げ、「一澤帆布は分裂するのでは？」という憶測まで飛び交っている。ただでさえ入手困難な一澤帆布の靴だが、騒動が一段落するまでさらに手に入れにくい状況が続きそうだ。

一澤帆布は京都が誇るべきブランドのひとつ。やむを得ない事情はあるだろうが、職人魂と製品のクオリティの高さ、親切丁寧なアフターケアだけはなんとしても維持して欲しい。多くの人が工房から再びミシンの音が聞こえるのを楽しみにしている。

この競技にスポーツ文化を感じたのがトリノの収穫



中国からの花嫁

海外から花嫁を迎えるなら、やはり花嫁を支える家族が必要だと思う

滋賀県長浜市の幼稚園児刺殺事件の容疑者は中国東北から日本に嫁いできた中国人花嫁だった。容疑者は「日本の生活になじめなかった」と殺人に至るまでの悩みを話し始めている。統計によると'04年の日本人男性と中国人女性の婚姻件数は1万件以上。日本人男性と中国人女性との結婚を仲介する業者があり、結婚相手がなかなかみつからない日本人男性を対象に2泊3日の日程で中国に赴いて見合いをし、再び現地で式を挙げて日本へ連れて来るといふ。ところが花嫁が来日直後に失踪するケースや、日本の生活になじめず心身ともに参ってしまうケースも多い。結婚相手を探す日本人男性と、日本での豊かな生活を希望する中国人女性双方の希望が叶うという意味では、このシステムの意義はある。しかし、花嫁の心のケアはどうか？ 中国人花嫁の離婚率は約3分の1。業者が相談に乗るのも大事だが、やっぱり家族が全面的に花嫁の心を支えることに優るものはないと思う。

稍微等待了!!



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目論む。HP●<http://www.1.ocn.ne.jp/~tsukapon/>

イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ、猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>